

## 筑波大学、京都大学などがマレーシア政府の防災対策および人材育成を支援

マレーシアでは、最近、大洪水などの災害が頻発し環境・経済さらには人命に多大な影響を及ぼしている。日本政府はこれを受け、支援策を打ち出した。マレーシア・クアラルンプールのマレーシア工科大学キャンパス内に建設された MJIT に防災センターを設け、今年、政府関係者への専門的知識の修得機関としての体制創り、修士課程の設置を予定している。日本側の外務省、大学連盟(JUC：26大学加盟)では、その推進役として筑波大学のベントン・キャロライン副学長のもと宮本邦明教授を中心に筑波大学、京都大学防災研究所、九州大学、芝浦工業大学、山口大学、金沢大学、水災害・リスクマネジメント国際センター、防災科学技術研究所による主導を決定し、業務を展開中である。(以下、時事通信社記事 2016.12.26 <http://www.jiji.com/jc/zc?k=201512/2015122600075&g=soc> )

文責：杉浦則夫

### 災害大国・日本の知見伝授＝マレーシアの人材育成支援



日本の防災対策を学ぶ修士課程を開設するマレーシア日本国際工科院(MJIT)の校舎=23日、クアラルンプール

【クアラルンプール時事】洪水などの自然災害に悩むマレーシアが「災害大国」日本の知見を学び、防災力を強化する取り組みが始まる。クアラルンプールで日本式の工学教育を行っている工科系大学「マレーシア日本国際工科院」(MJIT)は来年9月、防災管理の修士課程を開設。筑波大学や京都大学防災研究所などが授業を支援し、政府担当者らに先進的な対策を伝授する予定だ。

マレーシアでは毎年のように豪雨による洪水や地滑りが発生。昨年末から今年初めにかけて起きた洪水は、20万人以上が避難し、死者が20人を超す過去最大規模の水害となった。

深刻な被害を受け、政府は防災センターを設置し、専門的な人材の養成や災害の研究開発に取り組む方針を決定。「防災先進国の日本から学びたい」という政府方針の下、日本の大学が教員派遣などで支援するMJITにセンターを設け、国の防災研究拠点として活動することになった。(2015/12/26-14:39)